

自己評価および外部評価結果(ほほえみ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・地域密着型サービスの意味を職員全員が認識し、地域の中でのふれあいを大切にしている。 ・経営理念と運営方針はよく見える所に掲示している。	「明るさいっぱい、真心サービス」という理念を掲げて、職員全員が日頃から地域の中に溶け込んで行ける様、地域交流を積極に行っている。また、行事等に参加してもらおう事で地域の一員としての実践を果たしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・利用者の状態から考えて、なかなか出向いていく事が困難な為、地元の小学生・中学生・ボランティアを通じて、ふれあいを深めている。 ・月1回ボランティア来所。	利用者さんと一緒に近隣へ散歩したり、行事(ふるさと祭りや併設施設の行事)に参加したりすることで、地域の一員としての自覚を持って日常的に交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域で開催される研修、会合にはできるだけ参加するようにしている。(管理者・職員問わず)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は偶数月に行っている。議題について参加者で話し合い、意見や指導を参考にして、現場に生かしている。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催している。地域住民の意見を参考にしながら、事業所の運営やサービスの質向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議に、市町村の出席の時にいただいた助言、指導を参考にして対応しています。時には相談に行くこともある。	行政と連絡を密にとり、情報交換を行ったり、近隣の事業所との意見交換会等に参加したりすることで、積極的に協力関係を気付くよう努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・出入口、玄関の施錠はしていません。 ・不穏になられた利用者の方には、職員と散歩に出かけるなどして気分転換をしている。	普段から近隣の人も自由に施設内に入ることができるよう、玄関口は施錠しないようにしている。また、利用者が施設内に閉じこもらないように、積極的に戸外に出かけるようなケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止の認識は職員全員認識しております。 ・研修(勉強会)も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・この制度を特に必要とされる利用者の方はおられないので、管理者は研修会に出席している。職員全員に復命書での認識はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時、契約書・重要事項説明書の説明は充分しているので、ご家族には理解して頂いていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・H21.5月に家族の会を発足し、その会員の方を中心に輪を広げ、意見や要望を聞き、職員全員で検討し、実行・実施している。	家族会の開催や、家族の来訪時に意見や施設への要望を伺い、運営に反映させている。また、家族の方から行事等へのサポート依頼もあり、その中で職員と家族が談話を通して自然に交流が深められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・定例の職員会議、毎日の申し送りで話し合い、意見交換をしている。	月に1回の定期会議の他に 日頃からユニットリーダーが職員個々の意見や提案を聞き、問題があれば解決に向けて取り組み、サービスの質向上に反映するよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・資格取得に該当する職員には研修に行くように勧めている。 ・時々ストレス調査を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員とコミュニケーションをとる機会をつくり、不満、苦情など聞くようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・管理者、ケアマネージャーが出席しての市内で行われる会合には参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所の申し込みを頂いた利用者の方には事前に面談を行い、思い、生活状態、心身の状態などを把握しておく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・本人に対して、また、事業所に対して家族が求めているものは何かを聞き、信頼関係を築くことにつとめる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・早急な対応を求められる方については、ケアマネージャー、また、他の事業所と連携をとり柔軟な対応を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・その時の状況から、本人の気持ちや思いを理解し、さりげなく見守るケアをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族来所の時は居室、又は、ホールで本人とゆっくり話す時間を過ごしていただく。 ・行事には出来るだけ参加をお願いする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・時々、車で実家の近くに行ったり、地区の方が来られるデイサービスに遊びに行ったりして、なじみのある方に会える機会を作っている。	日々のケアの中で利用者さんの生活歴を大切に重視しながら、自宅近くへのドライブや友人との交流の機会を設けており、関係が途切れないように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・できるだけ、ソファでゆっくりとくつろいで頂く時間を作る。 ・どうしても合わない方については席を変えたり、座る位置を考慮する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約を終了した方にも行事の案内を出したり、立ち寄って頂けるように声かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者一人ひとりとゆっくり話をしたり、触れ合う時間を作るようにしている。 ・昔の話などをし、本人の思い出など聞き出す様な状況を作る。	利用者さんとの談話の中から、個々の思いや希望を引き出していき、サービスにおける意向を家族と共に相談しながら、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・一人ひとりを大切に思う気持ちを伝え、安心して生活して頂けるように配慮する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの生活のリズムや状況を考えながら、入浴や昼間の臥床など取り入れる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・月に一度モニタリングを行い、利用者主体のケアを考えている。 ・職員には担当者会議で徹底している。 ・家族には面会時に報告している。	月に1度、見直しを行っている。また、本人や家族の来訪時に直接、サービスに対しての要望を伺い、事業所内でカンファレンスを行ないながら、より良いサービスが提供できるよう現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・定例の職員会議や毎日の申し送りを通して、利用者の変化や状況などの共存をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・既存のサービスに促されない柔軟な支援やサービスをし、多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員との意見交換会を行う。 ・訪問理容(地域の業者)を活用している。 ・第三者委員会を立ち上げ、意見を聞く。 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、利用者全員定期受診を実施。 ・かかりつけ医とは常に連携を取り、状態に応じて(緊急を含む)受診をする。 	かかりつけ医の定期往診の他、緊急時には夜間往診や併設施設の看護師との医療連携体制が整えられている。また、本人や家族の希望の医院への受診介助も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・週一回(火曜日)訪問看護を取り入れている。(ささいな事でも相談できるので心強い所がある。) 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院の場合は病状等について、家族と話し合い、情報の交換をしながら一日おきに見舞う事になっている。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期についての方針は事前に家族とよく話し合いをし、家族の要望や意志を十分把握した上でターミナルケアの希望があれば希望に応じる。 	終末期ケアにおいては、入所契約時に家族の意向を伺い、希望においては実施されている。また、重度化を防ぐために朝夕の体操や歩行練習等を和やかな雰囲気を出しながら、職員と一緒にやっている。	食事や団欒の時に、車椅子から椅子への座り換えをするなど、日中の過ごし方を少し工夫することで、自然と重度化を防ぐ方法を取り入れて行けるのではないかと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての職員が参加する勉強会を実施している。テーマを変えて3ヶ月に一度、実施している。(実技を含む) 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は年に3回実施している。 ・事業内での消火訓練にも参加する。 	近隣への災害時の協力体制は整っているが、現時点では近隣との同行訓練は行われていない。しかし、消防署との合同訓練により、安全に避難できる方法を職員全員が身に付けており、緊急時における体制は整えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・特にトイレ介助、入浴介助の際は、言葉かけに充分配慮している。	日々の生活において、職員は丁寧な言葉かけ(利用者さんをフルネームで呼び等)に努めている。また、排泄、入浴時のプライバシーの保護においては、全職員が利用者一人一人の人格を尊重しながら家庭を感じさせられるように和やかに対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・入浴やその日の衣類については、本人の意志を重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・本人が一番良い状態で生活して頂くよう配慮している。 ・好きな事をして頂く。 ・自分で分からない利用者には声をかける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・衣類は自分が選んだ物を身につけるようにしている。 ・行事の時等、化粧したり、派手な服を選ぶようにする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者と話し合ってメニューを決める機会を作る。 ・食器や盛り付けにも工夫する。	食事が生活の中で楽しみとなるよう、施設内の菜園と一緒に収穫した食材を利用したり、下ごしらえや配膳等個々のできることを見つけて利用者が調理に参加して悦びが味わえるような支援を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・見た目と栄養のバランスを考えながら調理する。 ・カロリー摂取量については、栄養士がチェックをしている。一年に3回。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後のうがい、歯磨き、義歯磨き。 ・うがいの出来ない利用者はガーゼでケアをする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ誘導、排泄介助の声かけには充分気を付けている。 ・自尊心を傷つけないよう配慮する。 	夜間時のオシメを紙から布に代えることで、保温とじょくそうを防ぐ支援が行われている。また、利用所の排泄パターンを把握することで失禁を防ぎ、排泄の自立に向けた支援が提供されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・便秘症を持っておられる方についてはかかりつけ医と相談しながら対応している。 ・一時的な便秘の方は食べ物で工夫する。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は一人ひとり声をかけ、出来るだけ多くの方に入って頂く。 ・羞恥心、恐怖心には十分配慮する。 	可能な限り、本人の希望時間にゆっくりと入浴を楽しめるような支援が行なわれている。また、外部からの温泉出張サービスも取り入れており、時々、外出を兼ねて温泉に足浴へ出かけ楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・一日中離床が無理な方については、夜の就寝に差し支えない時間にする。 ・昼夜逆転しない様に気を付ける。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬ファイルを作成して職員が内容を把握できるようにしている。 ・体調の変化が見られるときは、かかりつけ医にすぐ相談する。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活歴や趣味などを活かした作業や手伝いが楽しみながら出来るように声かけをする。 ・簡単な役割を作っている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物は時々利用者と一緒にに行くようにしている。 ・金融機関に用事の時等、少しドライブしたりする。 	食材の買い物等へ一緒に行ったり、利用者さんに季節感を感じて貰うために 山野草と一緒に摘みに行き、食材の一品として食卓に並べたりして外出する機会を楽しんでいる。また、家族の来訪時には、近隣の温泉に外出できるような支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・家族よりお小遣いとして現金を預かっているため、その中からホーム内でバイキングなどして好きな物を買う。 ・買い物に出た時も一品だけ買う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者が電話をしてほしいとの希望があった時は、その場です。 ・手紙のやり取りは自由にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ホール、居室内を明るい雰囲気にするよう配慮している。 ・壁飾りなどで季節感を取り入れる。 ・レクリエーションの中で時期の話をする。	共用の空間には、季節感が解るような飾り付けがされている。また、居心地良く暮らせるように加湿器を様々な場所に設置して、室温管理とインフルエンザ予防のための衛生管理を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・居室、又は、ソファで自由にくつろいで頂ける雰囲気を作る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家族の方に馴染みの品など、持って来て頂いている。 ・寝具、シーツなどにこだわりのある方については希望を重視している。	入所時に家庭で使い慣れた好みのものを持ってきて貰う様お願いして、家庭の延長であるように居心地良く過ごせるように配慮している。また、自宅での生活歴を考慮して畳を敷く等、より自宅に近い環境で過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室内は本人が分かりやすい場所に物を置く。(危険物除く) ・危険に繋がる物以外は、自由に使えるようにしている。		